

2025「学校教育目標」

1 建学の精神

建学の精神の要約は「**学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ**」である。

すなわち学術の場では学術の研鑽と共にジェントルマンシップ、レディシップを醸成陶冶する。

スポーツの場では健康の増強、心技の錬成と共にスポーツマンシップを体得する。

スポーツマンシップ イズ ジェントルマンシップ。

スポーツマンシップとは 一、ルールを守る 二、ベストを尽くす 三、チームワークをつくる 四、相手に敬意を持つ この四大綱を内容とする。

2 校 訓

梅村学園の学祖である梅村清光は、生まれ故郷である水戸の藩校・弘道館の建学の精神の一つ

「**文武不岐（ぶんぶふき）**」を受け継ぎ、「**真剣味（しんけんみ）**」を校訓に掲げた。

「真」は真実、真理の「真」で「知育（学力）」「剣」は剣道、剣術の「剣」で「体育（体力・スポーツ）」「味」は人間味の「味」で「徳育（人間力）」を意味する。

3 学校教育目標

「高い志を持ち 心身ともに健康で 自ら学ぶことのできる 情操豊かな中京生を育成する」

4 目指す教育とその実践

（1）自校教育の推進

梅村学園の一員としての、自覚と誇りを育てるため自校教育を推進する。

そのため、教職員自らが自校教育に精通し、生徒には機会あるたびに学園創立の歴史、創立者の功績、建学の精神と校訓等について解説し、自覚と誇りを胸に高校生活を送らせる。

（2）高い志を持ち、自ら学ぶ力を育て、個々の個性や適性に応じた進路の実現

「建学の精神」と「校訓」のもと、生徒に対して自らの人生を切り拓いていくために必要なものは何かをつかませ育んでいくことが大切である。

そのため、一人一人の教員が教科の専門性に特化した力量を発揮しながら、「何を学ぶのか」「どのように学ぶか」、この学びによって「何が身に付くのか」について明確に示した上で、知識理解の質を高め「主体的・対話的で深い学び」の領域に導くことが必要である。このことを実現させるには、各教科で蓄積した内容からなる、夢のある「グランドデザイン」により、多様な学びの場を実現させる。

(3) 7年一貫教育と高大連携

7年一貫教育とは、「附属高校入学」から「中京大学卒業」までの、7年間を視野にいたした教育プログラムである。そのため高校入学から大学卒業までの合理的な連携が、発展的に進行するように高大連携ワーキンググループで議論を深める。

(4) グローバル教育の推進

知識・情報・技術をめぐる変化が加速度的に進行し、情報化やグローバル化といった社会変化が予測を超えて進展してきている。こうしたことを前提として、本学に必要なグローバル教育を積極的に推進する。このことによって、世界的な視野で物事を関連付けたり組み合わせたりして、より深い理解と物事を捉える視点や考え方を育む。

(5) 心身の健康と規律ある習慣の定着

日常生活を営む上で必要な行動の仕方や、望ましい在り方・生き方を追求する態度を「学級活動」を通じて、学級担任が計画的、発展的に指導する。その方法は学級担任が学級づくりのグランドデザイン（学級経営案）としてまとめる。

また、「生徒会活動」や「部活動」は、教員の広く豊かな視野からなる適切な指導助言の下、多様な個性をまとめ良好な人間関係を形成させることに役立つ。身に付いた行動規範は、学校運営全般において重要な意義を持つことから、教育効果を高め続けていく基盤と位置づける。

(6) 情報化社会に対応した生徒指導の確立

生徒指導は「教育目標」を達成する上で重要な機能を果たし、学習指導と並んで重要な意義を持つ。一個人の行動、選択や判断が学校や組織、所属する個々に対して重大な影響を及ぼす社会構造の中にある。そのため、学校生活のあらゆる場や機会を捉えて、集団や社会の一員として認められることを前提とした生徒指導を確立する。

(7) 組織力の蓄積と継承

各世代が蓄積してきた有効な手段や情報が、組織内で「知の循環」として共有されたり、次世代に「知の継承」として引き継がれたりすることが、安定した組織力を維持することに繋がっていく。教職員一人一人が「知の循環」「知の継承」の重要性を意識し、伝えること、共有すること、引き継ぐことに傾注する。